

## 2019年度事業計画

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

### 1. 基本方針

2019年度、公益社団法人大阪フィルハーモニー協会は前身である関西交響楽団創設から72年目を迎えます。

新年度も当協会は、引き続き大阪フィルハーモニー交響楽団の運営を中心に、交響管弦楽その他音楽の普及振興を図るとともに、青少年層の音楽鑑賞・演奏に関する指導を行い、古くから活動を行う大阪を代表するオーケストラとして、わが国の文化芸術の振興、大阪を中心とした地域活性化に貢献することを事業の基本方針といたします。

また、当協会が保有する大阪フィルハーモニー会館を、市民の音楽活動の拠点として貸与する事業を通じて、地域の音楽文化の普及・振興に貢献するとともに、会館施設の一部を一般に賃貸する収益事業を通じて、交響楽団運営等の公益事業の費用に充当していきたいと考えております。

これらの事業推進にあたりましては、引き続き、財政的に安定した協会運営を目指して公演数、公演入場者数、各種会員数、会館利用者数等の更なる増加に向けた取組みを優先課題として取り組むことといたします。

なお、弊楽団は、2018年4月より新たに尾高忠明新音楽監督を迎え、定期演奏会やベートーヴェン交響曲全曲演奏会等の自主公演を通じて、アンサンブル能力の強化と、緻密さに裏付けられた真に力強いサウンド作りを目指してまいりました。

また、日常の業務運営におきましては、引き続き公益社団法人として求められる内部統治(ガバナンス)の充実強化、法令遵守の徹底、情報の保存・管理と適正な公開、リスク管理の強化等に努めてまいります。

### 2. 事業基盤の維持・拡大に向けた2019年度の展開

引き続き、次の3本の重点課題を柱に、事業基盤の維持・拡大を進めてまいります。

#### (1) 自立に向けた収益基盤の充実

2019年度は、ベートーヴェン全交響曲演奏会に引き続き、新たな自主公演としてブラームス・チクルスを開催するとともに、2018年度に引き続き東京定期演奏会を開催いたします。そのため、自主公演は、昨年同様40公演となる見込みです。また、

文化庁学校巡回公演や企業等からの依頼公演は、小編成の室内楽公演や大阪クラシック公演を除き、年間 66 公演を見込み、合計の年間公演数は、106 公演を計画しております。

1. 自 主 公 演 ( 40公演 )		
公 演 名	会 場	公演数
定期演奏会	フェスティバルホール	20
東京定期演奏会	サントリーホール	1
ブラームス・チクルス	ザ・シンフォニーホール	4
マチネ・シンフォニー Vol.21・22	ザ・シンフォニーホール	2
ソワレ・シンフォニー Vol.13・14	ザ・シンフォニーホール	2
親子のためのオーケストラ体験教室	大阪フィルハーモニー会館	4
神戸特別演奏会	神戸国際会館こくさいホール	1
ドラゴンクエスト・コンサート	びわこホール	1
3 大交響曲の夕べ	フェスティバルホール	1
京都特別演奏会	京都コンサートホール	1
第九シンフォニーの夕べ	フェスティバルホール	2
新春名曲コンサート	フェスティバルホール	1
2. 依 頼 公 演 ( 66公演 )		
企業・団体・学校・ホール等からの依頼公演		64 公演
大阪クラシック(有料・オーケストラ公演)		2 公演

定期演奏会は、オーケストラ演奏の芸術性を高め、コアなクラシックファンだけでなく、幅広い音楽ファンに対して弊楽団の個性と実力をアピールするとともに、目指す音楽的方向性を示すシリーズとなっています。2019 年度は、尾高音楽監督の指導の下、古典派の作品にも取り組みつつ、没後 150 年を迎えるベルリオーズ等、フランス音楽にも目を向けて取り組んでいきます。これらの作品群に取り組む中で、弊楽団としましては、尾高監督就任初年度に培った基礎的なアンサンブル能力やサウンドを更に発展させ、新たな大フィルサウンドに進化／深化させていきたいと考えております。

2019 年度も、共演者は若手から巨匠まで国内外の様々なタイプの指揮者、独奏者を招いておりますので、昨年に引き続き、聴衆の皆さまにも音楽的な奥行き・広がりを感じていただける貴重な機会が提供できるのではないかと考えております。中でもシャルル・デュトワやハインツ・ホリガーなど世界的な指揮者・音楽家との共演は、弊楽団が世界水準の演奏を目指していく上で大きな経験になると確信しており、没

後70年を迎えるR.シュトラウスにスポットをあてた第532回では、長い作曲家人生の初期から最晩年までの作品の中から、尾高音楽監督が自信を持ってお薦めする4作品を採り上げます。

東京定期演奏会は、幅広いクラシックファン向けに、「尾高音楽監督×大フィル」の実力をアピールする機会にしてまいります。

自主演奏会では、好評を博しました「ベートーヴェン交響曲全曲演奏会」に引き続き、「ブラームス・チクルス」をザ・シンフォニーホールにて4回シリーズで開催いたします。同演奏会は、弊楽団が朝比奈時代から繰り返し取り組んで来たドイツ3大Bの一角「ブラームス」を採り上げるものですが、プログラミングは通常、協奏曲を前半に演奏するパターンが多い中で、今回は演奏機会の少ない合唱曲を組み込む企画としております。大阪フィルには「大阪フィルハーモニー合唱団」という専属の合唱団がありますが、近年その実力を上げており、その強みを活かしたプログラムとしてブラームスの隠れた名曲とも言える合唱曲を採り上げることは、シンフォニックなだけではない繊細な歌心に溢れたブラームスの一面を、多くのクラシックファンに知ってもらう絶好の機会になると考えております。また、合唱団の実力を更に磨く貴重な演奏会になるため、今後の弊楽団の演奏活動にとっても大きな財産を残す演奏会になるものと期待しております。

また、「名曲シリーズ」として再編した「マチネ・シンフォニー」「ソワレ・シンフォニー」「3大交響曲の夕べ」「新春名曲コンサート」につきましては、引き続き普段クラシック音楽に敷居の高さを感じている、あるいは、あまり興味お持ちでない方に対しても、判りやすく、親しみやすく、魅力的なコンサートとして訴求していきたいと考えております。来年度は、集客面で苦戦しているマチネの魅力アップのため、得意のラヴェル作品を並べたプログラムで大植桂冠指揮者に初登場してもらいます。また、尾高監督には、クラシックの枠を超えたシルバー世代のファン層にアプローチすべく得意の映画音楽を採り上げてもらいます。なお、2018年度に引き続き開催を予定しているゲーム音楽を採り上げた「ドラゴンクエスト・コンサート」につきましては、びわ湖ホールでの休日開催とし、クラシックファンのみならず幅広い層に訴求し、新しいファン層開拓に繋がるコンサートにしていきたいと考えております。

以上のような演奏会の充実に加え、ファン層拡大を企図した施策についても実施いたします。

2019年度は、新たに全面刷新した「年間総合パンフレット」を作成いたしました。これまで定期演奏会および自主演奏会を紹介するA4版の年間パンフレットを作成し配布していましたが、これに代え、これまで無かった楽団員の顔写真や各種会員

制度詳細も掲載し、持ち運びにも便利なA5 版サイズにいたしました。会員・ファンの皆さまが、手許に置いて一年間を通じてご利用頂ける総合パンフレットになっておりますので、演奏会での配布はもちろん、各種会員の勧誘時等に積極的に利用してまいります。

なお、引き続きプロボノ賛助会員の電通様のサポートも含め外部の知見を取り入れながら、各種マーケティング施策を検討していきたいと考えております。

会費収入の増収に向けては、2015 年度より新たに設置したパトロネージュ推進室のアドバイザーならびにアンバサダーの活動を引き続き効果的に展開するとともに、法人会員については会員会社の協力も得て組織的な対応を充実させることで、新たな会員獲得に取り組みます。また、寄付金につきましては、大口の遺贈案件等の捕捉はもちろんのこと、演奏会での寄付金募集のチラシ折り込み等を通じた地道な努力も継続してまいります。

こうした活動を通じ、2019 年度は事業活動の一層の充実、収支の安定を図りたいと考えております。

## (2)オーケストラの体制整備

2018 年 4 月、尾高忠明マエストロに 3 代目音楽監督にご就任頂き、公演の企画や演奏面に関する指導・助言の役割を委嘱し、大阪フィルの演奏活動全般を総括して頂いております。

また、角田鋼亮マエストロには引き続き「指揮者」の委嘱を継続します。

楽団員の体制については、2019 年 2 月末現在 69 名のところ、中期的目標である 80 名体制の整備に向けて、引き続きオーディションによりトップレベルの優秀な人材の確保に努めてまいります。

コンサートマスターにつきましては、首席コンサートマスターとして田野倉雅秋氏と、首席客演コンサートマスターとして崔文洙氏と、コンサートマスターとして須山暢大氏との契約を継続します。

## (3)大阪の都市魅力の向上に資する社会貢献活動の推進

過去 13 回の開催により、大阪の秋の風物詩として、また 5 万人規模の音楽の祭典として定着してきた「大阪クラシック」を、今年度も 9 月に在阪オーケストラ・吹奏楽団等と共同で開催すべく、大阪クラシック実行委員会において協議・調整を行っております。

「大阪クラシック」の継続開催により、大阪の新しい都市魅力戦略の重点エリアでもある「御堂筋」「中之島」の活性化や、大阪の都市格向上への貢献を目指します。

次世代層に対するクラシック音楽普及の観点では、現在、定期演奏会の開催にあたってフェスティバルホールの3階席を学生席として25歳以下の学生の方々向けに1,000円という極めて安価にて提供しております。さらに、2018年度から「学生定期会員」制度を創設し、同会員の学生の皆さまには定期演奏会以外の自主公演の割引制度等を利用していただけるようにいたしました。また、2017年度からは、この3階学生席をより有効に活用するため、小学生等のお子様と親子で一緒に公演を聴くことができる「親子チケット」の発売も行っております。

また社会貢献活動の一環として、海外から大阪府内へ留学されている外国人留学生の皆さまを定期演奏会に無料ご招待する活動を行っており、2019年度についても継続実施してまいります。

### 3. 大阪フィルハーモニー会館の運営

弊協会が保有する大阪フィルハーモニー会館のメインホール(600㎡)・市民スタジオ(90㎡1室、40㎡2室)を、市民の音楽活動や文化活動の拠点として貸与する事業を通じ、地域の音楽普及・文化振興に貢献してまいります。

市民スタジオの貸室料金については、周辺の貸室環境等を精査し、出来るだけ地域の皆様に喜んでご利用頂けるよう2016年5月に改定いたしました。この結果、スタジオの稼働率は向上しており、より一層の利用PRを行うことにより稼働率の維持・向上に努め地域への貢献に寄与したいと考えております。

なお、竣工後28年が経過する大阪フィルハーモニー会館建物については、公益法人の今後の活動基盤の健全化のため必要に応じて修繕等の検討を続けてまいります。

### 4. 2019年度に取り組むべきその他の重要課題

上記の他、外部との連携による事業拡大の重要性が高まっており、次のような項目を重要課題として取り組んでまいります。

#### (1)外部企業・団体との連携による公演来場者の増員

これまで旅行者や企業向け福利厚生サービス提供企業等と提携し、同社が運営している会員向けサイト等で弊楽団の公演情報等の掲載を進めてまいりましたが、引き続き2019年度も、他の外部団体も含め、更なる提携対象の拡大、内容の充実を検

討してまいります。

## (2)東京 2020 文化プログラムへの参加

現在、東京 2020 に向け、文化関係の事業実施について様々な検討が関係各所において進みつつあります。

弊楽団は 2018 年度に東京 2020 大会の文化プログラムの一環として、大会スポンサーである SMBC が実施する「SMBC PRESENTS 大阪フィルハーモニー交響楽団 室内楽の愉しみ IN TOKYO」「SMBC Presents Autumn コンサート」「下鴨神社コンサート」に協力いたしました。

2019 年度につきましても各種文化プログラムの実施を企画・検討してまいります。

## (3)2025 年大阪・関西万博開催に向けた動き

今後、2025 年大阪・関西万博開催に向け、様々な検討が関係各所において進むことが予想されます。弊楽団の活動の場を広げる絶好のチャンスですので、今後の事業拡大の一助となるよう積極的に情報収集してまいります。

以上

2019年度収支予算書（正味財産増減計算書総括表）  
（2019年4月1日～2020年3月31日）

2019年3月12日

（単位：円）

	2019年度予算	2018年度予算	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	221,700,000	225,450,000	▲ 3,750,000
正会員受取会費	192,900,000	196,650,000	▲ 3,750,000
賛助会員受取会費	28,800,000	28,800,000	0
事業収益	616,692,000	578,436,100	38,255,900
公演収益	340,874,000	288,058,000	52,816,000
広告料収益	39,060,000	41,668,100	▲ 2,608,100
入場料収益	205,500,000	215,200,000	▲ 9,700,000
使用料収益	14,900,000	16,300,000	▲ 1,400,000
その他事業収益	16,358,000	17,210,000	▲ 852,000
受取補助金等	93,200,000	85,000,000	8,200,000
公的補助金収入	93,200,000	85,000,000	8,200,000
寄附金収入	34,800,000	34,700,000	100,000
一般寄付金収入	34,800,000	34,700,000	100,000
雑収益	1,000,000	1,000,000	0
雑収益	1,000,000	1,000,000	0
経常収益計	967,392,000	924,586,100	42,805,900
(2) 経常費用			
事業費	978,369,849	928,673,349	49,696,500
役員報酬	3,039,600	3,039,600	0
給料手当	362,826,441	367,457,874	△ 4,631,433
賞与	0	20,860,836	△ 20,860,836
法定福利費	60,860,041	58,360,420	2,499,621
旅費交通費	82,414,045	67,232,238	15,181,807
出演費	197,469,000	165,031,000	32,438,000
音楽費	8,577,000	8,343,000	234,000
文芸費	2,504,000	3,184,000	△ 680,000
謝礼金	1,988,000	2,008,000	△ 20,000
会場費	71,406,000	77,351,000	△ 5,945,000
楽器運搬費	8,609,000	7,789,000	820,000
外注費	5,000,000	3,500,000	1,500,000
宣伝費	6,000,000	5,814,000	186,000
印刷製本費	18,230,000	17,210,000	1,020,000
支払手数料	10,020,000	10,234,000	△ 214,000
消耗品費	2,199,735	2,220,000	△ 20,265
修繕費	3,203,400	4,071,200	△ 867,800
賃借料	2,280,609	2,362,560	△ 81,951
保険料	977,657	977,657	0
交際費	1,134,000	1,134,000	0
通信運搬費	3,811,517	3,963,840	△ 152,323
光熱水費	6,857,580	7,104,000	△ 246,420
委託費	7,106,408	7,168,314	△ 61,906
減価償却費	26,600,583	26,669,193	△ 68,610
雑費	14,556,569	14,369,200	187,369
租税公課	32,241,955	31,748,554	493,401
修繕引当金繰入額	4,678,000	4,678,000	0
賞与引当金繰入額	26,152,850	0	26,152,850
退職給付費用	7,625,859	4,791,863	2,833,996
管理費	11,035,558	7,955,457	3,080,101
役員報酬	2,026,400	2,026,400	0
給料手当	1,725,067	652,126	1,072,941
賞与	0	35,164	△ 35,164
法定福利費	279,959	95,580	184,379
旅費交通費	1,093,955	480,762	613,193
通信運搬費	301,483	165,160	136,323
印刷製本費	0	0	0
支払手数料	0	0	0
消耗品費	150,265	80,000	70,265
修繕費	96,600	128,800	△ 32,200
賃借料	180,391	98,440	81,951
保険料	24,343	24,343	0
交際費	126,000	126,000	0
支払利息	100,000	400,000	△ 300,000
光熱水費	542,420	296,000	246,420
委託費	535,592	473,686	61,906
減価償却費	1,830,994	1,835,716	△ 4,722
雑費	1,060,431	550,800	509,631
租税公課	372,045	275,546	96,499
修繕引当金繰入額	322,000	322,000	0
賞与引当金繰入額	347,150	0	347,150
退職給付費用	▲ 79,537	▲ 111,066	31,529
経常費用計	989,405,407	936,628,806	52,776,601
当期経常増減額	▲ 22,013,407	▲ 12,042,706	▲ 9,970,701
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 22,013,407	▲ 12,042,706	▲ 9,970,701
一般正味財産期首残高	399,411,601	422,556,657	▲ 23,145,056
一般正味財産期末残高	377,398,194	410,513,951	▲ 33,115,757
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III. 正味財産期末残高	377,398,194	410,513,951	▲ 33,115,757

（注1）一般正味財産期首残高に関して、2019年度予算は2018年度決算見込み値を、2018年度予算は2017年度決算値を使用

（注2）短期借入限度枠は300百万円とする

(単位:円)

	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	211,131,142	0	10,568,858	221,700,000
正会員受取会費	182,331,142	0	10,568,858	192,900,000
賛助会員受取会費	28,800,000	0	0	28,800,000
事業収益	616,692,000	0	0	616,692,000
公債料収益	340,874,000	0	0	340,874,000
広告料収益	39,060,000	0	0	39,060,000
入場料収益	205,500,000	0	0	205,500,000
使用料収益	14,900,000	0	0	14,900,000
その他事業収益	16,358,000	0	0	16,358,000
受取補助金等	93,200,000	0	0	93,200,000
公的補助金収入	93,200,000	0	0	93,200,000
寄附金収入	34,800,000	0	0	34,800,000
一般寄付金収入	34,800,000	0	0	34,800,000
雑収益	533,300	0	466,700	1,000,000
雑収益	533,300	0	466,700	1,000,000
経常収益計	956,356,442	0	11,035,558	967,392,000
(2) 経常費用				
事業費	976,913,869	1,455,980	0	978,369,849
役員報酬	3,039,600			3,039,600
給料手当	362,802,040	24,401		362,826,441
賞与	0	0		0
法定福利費	60,856,081	3,960		60,860,041
旅費交通費	82,405,694	8,351		82,414,045
出演費	197,469,000			197,469,000
音楽費	8,577,000			8,577,000
文芸費	2,504,000			2,504,000
謝礼金	1,988,000			1,988,000
会場費	71,406,000			71,406,000
楽器運搬費	8,609,000	0		8,609,000
外注費	5,000,000			5,000,000
宣伝費	6,000,000			6,000,000
印刷製本費	18,230,000			18,230,000
支払手数料	10,020,000			10,020,000
消耗品費	2,198,300	1,435		2,199,735
修繕費	3,151,050	52,350		3,203,400
貸借料	2,278,886	1,723		2,280,609
保険料	964,465	13,192		977,657
交際費	1,134,000			1,134,000
通信運搬費	3,808,638	2,879		3,811,517
光熱水料費	6,852,400	5,180		6,857,580
委託費	6,942,855	163,553		7,106,408
減価償却費	25,608,321	992,262		26,600,583
雑費	14,546,442	10,127		14,556,569
租税公課	32,241,955	0		32,241,955
修繕引当金繰入額	4,503,500	174,500		4,678,000
賞与引当金繰入額	26,150,200	2,650		26,152,850
退職給付費用	7,626,442	▲ 583		7,625,859
				0
管理費	0	0	11,035,558	11,035,558
役員報酬			2,026,400	2,026,400
給料手当			1,725,067	1,725,067
賞与			0	0
法定福利費			279,959	279,959
旅費交通費			1,093,955	1,093,955
通信運搬費			301,483	301,483
印刷製本費			0	0
支払手数料			0	0
消耗品費			150,265	150,265
修繕費			96,600	96,600
貸借料			180,391	180,391
保険料			24,343	24,343
交際費			126,000	126,000
支払利息			100,000	100,000
光熱水料費			542,420	542,420
委託費			535,592	535,592
減価償却費			1,830,994	1,830,994
雑費			1,060,431	1,060,431
租税公課			372,045	372,045
修繕引当金繰入額			322,000	322,000
賞与引当金繰入額			347,150	347,150
退職給付費用			▲ 79,537	▲ 79,537
経常費用計	976,913,869	1,455,980	11,035,558	989,405,407
当期経常増減額	▲ 20,557,427	▲ 1,455,980	0	▲ 22,013,407
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減	▲ 20,557,427	▲ 1,455,980	0	▲ 22,013,407
他会計振替額			0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 20,557,427	▲ 1,455,980	0	▲ 22,013,407
一般正味財産期首残高	341,220,835	16,973,438	41,217,328	399,411,601
一般正味財産期末残高	320,663,408	15,517,458	41,217,328	377,398,194
II. 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III. 正味財産期末残高	320,663,408	15,517,458	41,217,328	377,398,194